



## 憲法を守り生かそう

5/3の「けんぽうフエスタ」(憲法を守る掛川市民アクション主催)で弁護士の小笠原里夏さんは、戦争法に反対したママの会の「誰の子どもも殺させない」の言葉を引用し、戦争をさせないための行動を呼びかけました。

今ないがしろにされている憲法9条がそれでも歯止めとなっていて、どこの国の人も殺さず、他国の人から殺されずに77年の戦後を生きた日本。これこそ誇りにしたいと強く思います。

テレビで地元出身の自民党国会議員が「軍事費を2倍にし、改憲で外国を攻撃できるようにする、そんな提言を党にした」と話していました。心底恐ろしいです。

軍事力では戦争は防げないというこの証明がウクライナ戦争です。軍事増強で平和が保てるという論理のほうを「お花畑」だと私は思います。



連休中に本屋大賞を受賞した「同志少女よ敵を撃て」(逢坂冬馬)を読み、改めて「戦争は女の顔をしていない」(アレクシエーヴィチ原作と小梅けいと)の漫画)を読み直しました。共に、第2次世界大戦の旧ソ連、ウクライナも舞台です。どんな事があったても戦争を起すことはない。戦争は人間を壊すからです。

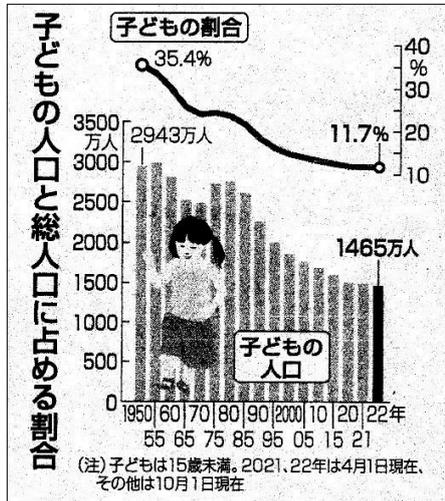
今の国際社会で、自分の国に銃口を向ける軍事基地を持った国と戦争を放棄した国。どちらが安全か。民間人の殺りくはロシアでさえも隠そうとする国際法違反です。戦争の準備をすれば戦争を呼び込みかねない。

市は毎年18才になる市民の個人情報や自衛隊勧誘のために提供しています。自衛隊には若者の情報がどんどんため込まれています。国家にとって一度始めた(始まった)戦争は勝つことが至上命令です。若者を絶対戦場に送ってはなりません。



シャクヤクが届きました

## 子育てしにくい国に未来はない



生物的に言えば、結婚しない、子どもを産まない社会は滅びます。国際的にみてダントツの少子化は私たちに何を教えているのか。

新自由主義のもとで非正規雇用が広がり、劣悪な労働環境が放置され心を病む人も多い。低賃金の上に住宅政策や生活保障などの社会保障が特に若者部分で抜け落ちてきているため、結婚や子育てからドロップアウトする若者も大勢存在します。

政治の招いた少子化は政治を変えないと解決しないと思います。

少なくともOECD諸国並みの教育費、子育て予算を!

## わたしたちのまちのごみ処理を考える学習会

参加費 500円

講師 岩佐恵美さん

環境・資源・廃棄物問題研究家  
元日本共産党国会議員[衆4期・参1期]



日時 5月21日(土) 9:30~12:00

場所 たまり~な大研修室(22世紀の丘公園内)

掛川・菊川ごみ処理を考える市民の会準備会 連絡先《掛川》渡辺 久次 090-1861-0893  
《菊川》久保田 修治 090-3935-5166

※学習会終了後に会の結成を予定しています

講師は元国会議員の岩佐恵美さん。ごみ問題・環境問題をずっと追いかけてきた方です。最新の情報をもとに将来的なごみ処理政策の方向をわかりやすく学ぶ会にしたいと思います。

ぜひ参加下さい。